

# 石 すとーん・さーくる

No.112

発行 新潟県石仏の会(代表 星野 紀子)

2021年12月15日 発行

事務局 ☎945-0837 柏崎市三島町16-2 渡邊三四一 電話0257-22-1941

ホームページ <http://niigata-sekibutu.voxx.jp>

石 仏 散 歩

## 新発田市乗廻

### 四島神社の宗吾神塔

田上町 伊与部 倫夫

福島潟の東岸近く、新発田市乗廻の集落を少し北に行った水田の中の道路脇に、四島（よしま）神社がある。この境内には、数基の石造祭祀物がある。湯殿山塔・寒倉塔・飯豊山塔と古峰祠、そして山神塔があるのだが、この山神塔に佐倉宗吾を合祀しているらしい刻銘が見られる。石塔前面に鳥居を大きく陽刻し、その上に「山」と「宗吾」、鳥居を跨いで「神」を二個併記する。つまり、鳥居を跨いだ形で「山神」と「宗吾神」を併記し、石塔に合祀しているもの、と言える。

この石塔については新潟県教育委員会が福島潟干拓事業に伴う調査報告として出した「福島潟」1970年の「信仰伝承」の章に記載がある。大正六年に浦沢駒吉という方が、福島集落の「弁天様」の屋号を持つ友人が他へ転出する際に譲り受けて祀ったとの事で、作神として信仰したらしいが、詳しい事は解らないとう。そして「宗吾神は佐倉宗五郎であろうか」とある。

この、石塔に鳥居の形を表現したものは他にも見られる。私が把握しているものでは新潟市南区の大倉諏訪神社境内にある。問題は「宗吾神」だ。

佐倉宗吾郎は江戸前期の人で、下総国佐倉藩領主堀田氏の重税に苦しむ農民を救うため、将軍に直訴して承応二（一六五三）年に処刑された義民として伝説化

されている。その物語の多くは創作と思われるが、宗吾郎に相当する人物は実在し、後に堀田氏が改易された事が宗吾郎の怨霊によるものとされた事で、成田市東勝寺の宗吾靈堂の他、各地で神として祀られた。また実録本や歌舞伎の題材となり、年貢に苦しむ農民の英雄として偶像化されたようだ。

新潟県では、新潟市古町愛宕神社境内の口之神社で新潟明和騒動の義民と併せて祀られている。また長岡市栃尾の下塙諏訪神社境内に宗吾郎を祀る社があったとされ、現在それを示す石標が残っているのは、明治三年の栃尾郷における藤七騒動との関わりと思われる。

四島神社の石塔は明治以前と考えられるが、幕末以降、各地に宗吾郎を世直しの象徴として活動に利用する動きが現れたようで、明治の近代思想家である福澤諭吉は「古来唯一の忠臣義士」と呼び、自由民権運動家も自分達の先覚者として彼を讃えたという。そういう時代背景の現れが、この土地でこうした形で残つているとしたら、実に興味深いと思う。



宗吾神塔(四島神社)



如意輪觀音像(大口)

## 旧豊栄市・福島潟周辺の歴史と石仏を訪ねて

—下越・新潟地区見学会報告—

長岡市 服 部 優 美

新型コロナの感染者が減少し緊急事態宣言も解除されたラッキーな十月八日、下

越・新潟地区見学会が無事開催されました。

参加者十四名、案内役は会員の伊予部さんです。最初に福島潟周辺の地形について説明を受け、十三か所の見学先へ向かいました。印象的だった石仏や歴史について学んだことを報告させていただきます。

葛塚地区中大口の観音堂如意輪觀音 手に糸車を持ち、光背に反物のような模様があった。文化期の銘があり、ここ葛塚は織物の盛んな土地で機織りの守護神と

して、女性達の信仰を集めていたとのことだつた。柔軟な表情の中にも芯の強さを感じられるお顔だった。

### 鶴林院の准提觀音

准提觀音は空海が信仰し一般的には真言宗の寺に多いが、鶴林院は曹洞宗のお寺である。中国唐時代の禪僧俱胝和尚がこれを信仰し曹洞宗でも崇拜されたとのことで彌りが緻密で美しく、石工の気合いが感じられた。

### 新潟市北区郷土博物館

学芸員の曾部さんより福島潟干拓の歴史や人々の暮らしについて説明を受けながら、そこで使われていた舟や漁具を見学した。泥の中に胸まで浸つての耕作や漁の様子、葦を使つた漁法等が紹介され、水と闘いながらも自然との共生を図つてきた先人の苦労が伺えた。午後から今ではすっかり観光地になっている福島潟湖畔へ出向き、漁仕掛けの一部が残つているのを見たときは感慨深い思いがした。

### 水死亡靈塔

恐ろし気な名前のこの石塔には悲しい想いが詰まっていた。かつて福島潟は現在よりもはるか大きな潟で、対岸との行き来は小舟に頼らざるを得なかつた。突風に見舞われ水死する人も多く、「髪の毛3本動いたら潟を渡るな」などと言われる程だつた。水難への恐怖が高まり、靈を鎮めるた

めに天保十四年に地元の住職により建てられた慰靈塔である。

### 長安寺の名号五輪塔

火輪が算盤玉の形をしており各石に南無阿弥陀仏と念仏が刻んである面白い塔である。長安寺は明治時代に火災に遭うが山門は焼け残り、古建築として伝わっている。柱などに炭化された焦げ跡が生々しく残り、「よくぞ踏ん張つて残つてくれたね」と伝えたかった。



長安寺の名号五輪塔(中央)





田中さんの解説に聞き入る人々

## 廻船と街道と 良寛の町を歩く

出雲崎・中越地区見学会報告

柏崎市 渡邊三四一

十月二十九日朝、柏崎を出る時は雨雲に覆われていた空も、集合の「天領の里」に着く頃は青空がのぞき始めていた。

上越地区企画の北国街道シリーズを受け、柏崎で二回の見学会を行い、今回は打

上げとなる出雲崎での見学会。地元の田中文明さんが「越後出雲崎の石仏と町屋巡り」と題し、盛り沢山のコースを企画・ご案内くださいました。参加二十一名。

まずは西はずれの獄門跡。明治二年の三

人の処刑を最後に、その後は慰霊の地とし

案内くださいました。参加二十一名。

尼瀬の代官所跡や良寛ゆかりの西照坊を巡った後、絶景の夕日の丘へ。「にいがた景勝一〇〇選」の第一位の日本海の景色を楽しみながら、田中さんから佐渡金銀の陸揚げ湊であり、また北前船やタラ漁業で栄えた町の歴史を学んだ。そして羽黒神社では、廻船船主や漁民が航海安全のため奉納した多数の船絵馬や奉納額に圧倒された。

割烹「佐平治」で豪華な昼食の後、細長い民家が立ち並ぶ妻入り街道をガイド・渡辺さんの案内で散策した。歴史や五郎兵衛では、海沿いの民家の特徴である「出棚」が残され、小舟が出入りできる床下を見ることができた。良寛堂のある橋屋跡や廻船問屋泊屋跡など、町の榮枯盛衰を思いなが

て百万遍講中が建てた地蔵堂や周辺から集めた西国巡拝塔や馬喰連中による馬頭観音塔を見学した。



歴史や五郎兵衛前にて

最後に三十年ぶりに乙茂の米山塔と再会。わざわざ米粒に似た石材を選んでいて、稲作神への切なる祈りが伝わる。

帰路、出雲国から漂着した榎が根付いて大木になつたという「寄木様」に立ち寄り解散。とても有意義な一日であった。



米粒型の米山塔(乙茂)



源之助の馬頭観音(上野山)

らの町巡りであった。

次の上野山には、江戸後期に活躍した柏崎悪田村の石工・源之助が手掛けた馬頭観音像があった。名工の名は出雲崎にも届いていた。戦後の水害で流され、彼の特徴である「雲形」の飾りは欠けていたが、見事な彫りの馬頭像であった。

**事務局だより**



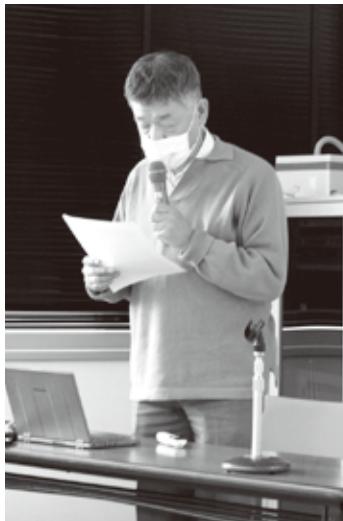
◆第25回石仏フォーラムを開催

十一月二十一日(日)、新潟県立生涯学習推進センター(大研修室)において「石仏フォーラム」が開催されました。(三〇名(会員)二四名、一般六名)の参加でした。以下、概要を報告します。

第一部(十時～十二時)の公開講演会では、溝口政子さん(菓子文化研究家)により「土の団子・米の団子―民俗行事の中の供物たち―」と題し、ご講演いただきました。神仏に対して供物である「団子」をめぐる壮大な歴史文化論で、全国各地の豊富な事例をパワーポイントで紹介いただきました。

そもそも団子には、土の団子と米の団子があり、大阪住吉大社の記録では土製の神饌として「土団子」が登場し、「つぼつぼ」「みすみ」と称されていました。また、かつて江戸谷中にある「笠森お仙」の水茶屋では、土の団子と米の団子が売られ、皮膚病（カサ）が治りますようにと笠森稻荷へ「土の団子」を、無事回復したら「米の団子」を供える習わしだったとか。

話は米の団子に移り、年中行事で作られる全国各地の多彩な団子の民俗を披露され、それぞれの団子に込められた心意を作り方やカタチから解説されました。その中で特に興



## 発表の伊予部倫夫さん



講師の溝口政子さん

◆『石仏ふおーらむ』14号の原稿を募集

今秋に刊行予定でいた本号は原稿不如意で今日まで編集が滞っておりまます。何とか年度内に刊行できるよう皆さまの投稿をお待ちします。執筆希望の方は、ぜひ事務局までご連絡ください。

今号の「石仏散歩」は下越・新潟事務局から  
の提供です。したがつて次号は中越担当  
の石仏散歩を掲載します。変則編集ですが  
ご了承ください。では皆さま、よいお年を。

編集後記

編集担当 中越地区事務局

第二部（十三時～十五時）は会員による調査研究報告で、①西蒲原の中世石仏について

周辺の歴史と石仏を訪ねて（前出・伊予部氏／新潟市・堀内正子氏）、③越後出雲崎の石仏と町屋巡り（柏崎市・長谷川昌子氏／佐藤雅子氏）の発表・報告がありました。

伊予部氏は、これまで西蒲原郡では未報告の中世石仏三基と板碑一基を発見し、その形態から中世靈場であつた出湯式石仏であると報告されました。地道なフィールドワークの成果であり、貴重な新発見報告でした。

り臨場感のある報告となりました。